

秋田の土地改良

10
2011・OCT



東日本大震災の被災地の皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。



がんばれ東北! がんばろうニッポン!!

目次

秋田県農業集落排水連絡協議会第20回通常総会……………	2	平成23年度換地委員等実務研修会……………	10
平成24年度農業農村整備対策予算概算要求の概要について…	3	平成23年度換地関係異議紛争処理対策検討会……………	10
TPP等から食料・農業・環境・地域を守る秋田県民フォーラム…	5	地域のちょっといい話(水土里レポーター 牧野 一)……………	11
平成23年度土地改良関係団体役員講習会の開催日程……………	5	特集:地域からの情報発信(仙北支部水土里レポーター 藤岡 義博)…	12
平成23年度秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会臨時総会…	6	あきた体験農園活動の取り組み状況、連合会日誌……………	13
平成23年度職員セミナー(新人研修)を開催……………	6	秋田県立金足農業高等学校就業体験、会員だより……………	14
平成23年度21創造運動大賞東北地方選考委員会……………	7	特集:農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ⑦)……………	15
21世紀土地改良区創造運動現地視察(水土里ネット稲川)……………	7	インフォメーション……………	16
2011秋田県中山間ふるさと水と土地見学会……………	8		



●発行所 秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL 018-888-2750(代) FAX 018-888-2834
<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



秋田県農業集落排水連絡協議会

第20回通常総会を開催

8月11日(木)、本会第1会議室で「秋田県農業集落排水連絡協議会」(会長:長谷部誠 由利本荘市長)の第20回通常総会が、全21会員(内委任状3会員)並びに県内8地域振興局農林部農村整備課長など48名が出席して開催された。

総会は、門脇光浩副会長(仙北市長)を議長に選出し、平成22年度事業報告及び収入支出決算、平成23年度事業計画(案)、分担金算出方法及び徴収の方法(案)、収入支出予算(案)について審議され、満場一致で原案のとおり承認された。

総会終了後、秋田県建設交通部下水道課の川井邦宏課長から「下水道等汚泥における放射性物質について」、同農林水産部農山村振興課の保坂龍弥課長による「体験型旅行企画を通じた地域づくりの実証について」と題した情報提供があった。

その後、県庁を訪れ「平成24年度農業集落排水事業予算の確保」について、佐竹知事を始め、堀井副知事、中野副知事、総務部長、建設交通部長、農林水産部長、秋田県議会議長などに要請書を手渡ししながら要請活動を行った。要請には、門脇副会長など協議会役員(代理含む)が参加した。

要 請 書

日頃より、農業集落排水事業の推進に格別のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

おかげ様で、農業集落排水事業につきましては、県の支援のもと「秋田県生活排水処理整備構想」に基づき、これまで22市町村201地区で農業集落排水施設が整備され、農業用排水はもとより、公共用水域の水質保全など農山村地域の健全な水循環に寄与するとともに、農山村の生活環境向上にも大きく貢献しております。

しかしながら、これからの農山村地域における生活排水処理の整備は、中山間地域等の条件不利地域の整備、並びに今まで以上の既存施設の更新・機能強化等による整備が大きな課題として残されており、引続き農業集落排水事業を計画的に実施していく必要があります。

折しも国では、昨年3月末、閣議決定した「食料・農業・農村基本計画」において、「食」と「地域」の再生に向けた食料・農業・農村政策を国家戦略として位置付け、国民全体で食料・農業・農村を支える社会を目指していくことを表明しました。

一方で、国の平成23年度農業農村整備事業予算は、前年と同水準ですが大幅に削減された予算の復活には至っておりません。また、農業集落排水事業は本年度に新たに創設された地域自主戦略交付金に移行しましたが、この交付金を考慮しても予算規模は、地元要望には満たない状況であります。

こうしたことから、これらの実情をご察察のうえ、農業集落排水事業の平成24年度予算の確保について、特段のご配慮をお願い申し上げます。



平成24年度 農業農村整備対策予算概算要求の概要

平成23年 9月 農林水産省

1. 概算要求に係る基本的考え方

平成24年度農業農村整備事業予算については、震災に強い農業インフラの構築や農地集積・規模拡大の加速化等の主要課題に対応するため、「農地」と「水」を最大限に活用し、農業生産力の強化と安心・安全な農村づくりの推進に必要な予算を要求。

農業農村整備対策の推進に当たっては、農業農村整備事業に加え、戦略作物拡大・防災保全整備事業、農地・水保全管理支払交付金、農山漁村地域整備交付金等を活用し、農業の基盤である土地と水の保全管理と整備を着実に実施。

2. 要求内容

農業生産力の強化と安心・安全な農村づくりのために「東日本大震災からの復興の基本方針」や「我が国の食と農林漁業の再生のための中間提言」を踏まえ、①農業水利施設等の防災・減災対策の強化、②担い手への農地集積を促す基盤づくり、③新たな主体によるリスクマネジメントの推進、④小水力等再生可能エネルギーの導入促進を推進していく方針。これらの方針に即し、農業水利施設の耐震化対策を実施する「震災対策農業水利施設整備事業」、施設の突発事故に対応する「国営施設応急対策事業」、農地の畦畔除去等のきめ細やかな基盤整備を実施する「戦略作物拡大・防災保全整備事業」等の新規事業を要求。

【農業農村整備事業 平成24年度概算要求の概要(国費)】(単位:億円、%)

事 項	H23年度 予 算 額	H24年度 計	要求・要望額		
			対前年度比	要求額	重点化措置要望額
農業農村整備事業	2,129	2,222	104.4	2,033	189
1. 農業水利施設の保全・管理	1,458	1,462	100.3	1,362	100
(1) 国営かんがい排水	1,134	1,179	104.0	1,079	100
(2) 水資源開発	55	55	100.0	55	—
(3) 土地改良施設管理	154	149	96.8	149	—
(4) その他	115	78	68.4	78	—
2. 食料自給率の向上に資する基盤整備	445	505	113.4	435	70
(1) 国営農地再編整備	83	95	114.7	88	7
(2) 戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業	330	384	116.3	321	63
うち戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業	262	305	116.4	257	48
うち特定地域振興生産基盤整備事業	68	79	116.0	64	15
(3) 特定中山間保全等整備	32	26	80.1	26	—
3. 農地の防災保全	227	255	112.7	236	19
(1) 国営総合農地防災	170	170	100.4	153	18
(2) 直轄地すべり	19	17	89.5	17	—
(3) 地すべり対策	28	30	107.3	29	1
(4) 公害防除特別土地改良事業	10	5	51.2	5	—
(5) 震災対応型農業基盤整備事業	—	24	皆増	24	—
(6) その他	—	9	皆増	9	—

注) 計算は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。復旧・復興対策については、別途整理。

農業農村整備対策について(農村振興局)

～「農地」と「水」を最大限に活用した農業生産力の強化と、安心・安全な農村づくりの実現～

主要課題

震災に強い農業インフラの構築

○老朽化施設等の保安全管理・整備

- ・年間500程度の基幹的農業水利施設が耐用年数を超過
- ・施設の老朽化に伴い、突発事故件数も増加傾向



- ・防災・減災の観点からの保安全管理、整備が急務

農地集積、規模拡大の加速化

○担い手への集積に不可欠な農地整備の促進

- ・大区画化、汎用化でコメ生産コストは約6割低減
- ・水田の6割は区画が整備済みだが、その3分の1は排水不良。麦・大豆の生産には排水改良が不可欠
- ・不整形、区画狭小などの未整備農地は、経営規模拡大の障害

地域主体による保安全管理の推進

○「農地」、「水」の保安全管理の強化

- ・施設の老朽化等への対応や集落コミュニティ機能向上のため、地域主体の保安全管理等の取組の強化・拡大が必要

エネルギー生産への地域資源の活用

○再生可能エネルギーの活用促進と地産地消

- ・土地、水など農山漁村に豊富に存在する未利用の資源を活用し、電力需給の安定化に寄与

主要事項

農業農村整備事業を2,222億円へ、非公共の小規模基盤整備を270億円へ増額するとともに、復興枠(477億円)も活用して、着実に実施

農業水利施設等の防災・減災対策の強化

- 地震発生のおそれの高い地域における農業用排水施設等に関して、災害の未然防止のための耐震化対策を実施

【震災対策農業水利施設整備事業(新規)24(0)億円】
【国営総合農地防災事業(拡充)170(170)億円】

- 国営造成施設の突発事故等に対する二次被害の防止、軽減のための迅速な応急対策を実施

【国営施設応急対策事業(新規)国営かんがい排水事業
1,179(1,134)億円の内数】

担い手への農地集積を促す基盤づくり

- 大規模経営体が概ねを占める構造の実現に資するため、土地利用型農業の経営規模拡大に不可欠な農地の大区画化・汎用化や農業水利施設の整備を推進

【戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業305(262)億円】
【国営農地再編整備事業等95(83)億円】

- 既に区画が整備されている水田の畦畔除去等による区画拡大や老朽化施設の補修等により、営農上の個別課題へのきめ細かな対応や安全な地域づくりを推進

【戦略作物拡大・防災保全整備事業(新規)270(220※)億円】

新たな主体によるリスクマネジメントの推進

- 地域コミュニティを活用した水路等の保安全管理、長寿命化等の高度な取組を支援するとともに、新たな主体による広域的な保安全管理の実施体制を整備

(農地・水保安全管理支払交付金 251(212)億円)
(うち向上活動支援交付金(拡充) 62(47)億円)

- 既に区画が整備されている水田の畦畔除去等による区画拡大や老朽化施設の補修等により、営農上の個別課題へのきめ細かな対応や安全な地域づくりを推進

【戦略作物拡大・防災保全整備事業(新規)270(220※)億円(再掲)】

小水力等再生可能エネルギーの導入促進

- 農業水利施設を活用した地域主導での小水力発電等の整備推進に向け、民間団体等の専門的ノウハウを活用した施設整備を先導的に実施

【小水力等農村地域資源利活用緊急促進事業(新規)9(0)億円】

※戦略作物生産拡大関連基盤緊急整備事業の平成23年度予算額

TPP等から食料・農業・環境・地域を守る

秋田県民フォーラム開催

「食料・農業・環境を守る秋田県民会議」(JA秋田中央会、水土里ネット秋田などの農業関係、さらには、消費者、商工業界など、本県の各種団体で組織)の主催による「TPP等から食料・農業・環境・地域を守る秋田県民フォーラム」が、約1,000名の参加を得て、7月21日(木)、秋田市文化会館において開催された。

このフォーラムは、「TPPへの参加は、農業や医療、福祉、雇用、建設業などに影響を及ぼす」ものとして、その議論を深めることを目的に、3月に開催される予定であったが、直前の東日本大震災の影響で、同日まで延期となっていた。

大震災以降、TPPに関する議論が停滞していたが、震災復興のためTPP参加を求める声が経済界を中心に再燃したことや、当時の菅首相が「参加の是非を早急に判断する」という発言があったこともあり、同フォーラムの開催に至った。

ジャーナリストの堤美果氏が「TPPの真実～私たちが守るべきものとは～」と題して講演され、「TPPへの参加がどのような影響を及ぼすのか、医療、農林水産業など個々の分野で反対するのではなく、団結して、真実を伝える必要がある」と訴えた。

また、秋田県立大学のTPP問題研究会の佐藤了教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションも行われ、堤氏、秋田商工会議所、県生活協同組合などの代表者がパネリストとなり、「TPP参加による県内への影響」について意見が交わされた。

最後に、TPP参加は、農業だけでなく他産業に及ぼすことを踏まえ、「震災からの農林水産業の復興」、「地域を守るため、TPP参加には断固反対」などの、同フォーラムの申し合わせを行った。

平成23年度土地改良関係団体役職員講習会の日程決まる

支部(管内)	月 日	開 催 地
鹿角、大館・北秋田(職員)	11月10日(木)	大館市「秋田県北部シルバーエリアコミュニティセンター」
平鹿(役職員)	11月10日(木)	横手市「松興会館」
雄勝(役職員)	11月11日(金)	湯沢市「湯沢グランドホテル」
山本(役職員)	11月14日(月)	三種町森岳「丸富ホテル」
仙北(役員)	11月16日(水)・17日(木)	仙北市 田沢湖高原温泉「プラザホテル山麓荘」
鹿角、大館・北秋田(役員)	11月17日(木)	北秋田市「合川農村環境改善センター」
由利(役職員)	11月21日(月)・22日(火)	由利本荘市「ホテルフォレストアウター」
秋田(役員)	11月24日(木)・25日(金)	秋田市「秋田温泉さとみ」
秋田(職員)	12月2日(金)	秋田市「秋田温泉プラザ」
仙北(職員)	12月6日(火)・7日(水)	仙北市 田沢湖高原温泉「プラザホテル山麓荘」

《共通テーマ》 ・維持管理計画書変更に係わる手続き ・農業用施設賠償責任保険及び団体傷害保険に係わる最新情報
 ・「各支部フリー講習」 ・管内農業農村整備事業の現状報告 ・秋田県農村災害ボランティアに係わる情報提供

秋田県農地・水・環境保全向上対策 地域協議会が臨時総会を開催

■施設の長寿命化対策(向上活動支援)に取り組む



10月5日、秋田市(ルポールみずほ)で「平成23年度秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会臨時総会」が、23会員団体(会員数30団体)の出席で開催された。

冒頭の挨拶で、黒子高夫会長(水土里ネット秋田専務理事)が「先週、国の来年度予算の概算要求案が出され、農業農村整備予算は対前年比104%の2,222億円となっている。また、本事業に関係した農地保全管理支払交付金は、28年度までの二期対策に取り組むことを明らかにした上で、251億円を計上している。本協議会としては、

県内すべての活動組織が二期対策への移行を望んでいたため、長寿命化対策の枠組みも出来ることから、一定のハードルを越えたと考えてはいるが、年末の政府決定まで注意深く見守って行きたい。本日は今年4月の事業制度の改正に伴う交付要綱、実施要綱及び実施要領などの改正に関連した議案について、ご審議をお願いしたい」と述べ、関係者の理解と協力を求めた。

引き続き、提出議案について協議が行われ、いずれも事務局提案通りに承認された。

農地・水・環境保全向上対策は今年4月の改正で、営農活動支援が「環境保全型農業直接支援対策」として独立し、これまでの共同活動支援に向上活動支援が追加され、名称も「農地・水保全管理支払交付金」に変更されており、県では、事業制度の改正に伴い新たに追加された、農地周りの水路・農道等の長寿命化対策を行う「向上活動支援交付金」を、今年11月から交付することとし、予算補正の措置を講じている。



【担当・問い合わせ先】 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会事務局
水土里ネット秋田 総務企画部内 TEL.018-888-2721 FAX.018-888-2834

秋田県土地改良事業団体職員会

■平成23年度職員セミナー(新人研修)を開催

8月31日、本会「第1会議室」で秋田県土地改良事業団体職員会(鈴木英弘会長)の「平成23年度職員セミナー(新人研修)」が、会員59名の参加を得て開催された。

セミナーは、鈴木会長の挨拶の後に、本会の水戸常務理事が、「これからの水土里ネット『土地改良区』から『地域管理センター』へ」と題し講演を行い、「県内土地改良区は300名を超える職員数となっており、昨今、不祥事も見られることなどから、国による本会の132条検査では、統合整備を主導的に進めるよう指導を受けている。また、国営造成施設を管理している土地改良区と、それ以外では格差があり、組織を大きくすることにより土地改良区の新たな役割に対応することができる」などと述べた。講演内容は以下のとおり。

1. 土地改良区の設立
2. 土地改良関係法の変遷
3. 土地改良区の現状と展望
4. 土地改良区職員としての必要なスキル
5. 秋田県のこと(秋田県農林水産業の概要から)



平成23年度

「21創造運動大賞東北地方選考委員会」が開催される!!

— 本県から水土里ネット南旭川が参加 —



8月25日(木)、仙台市(KKRホテル仙台)で「平成23年度21世紀土地改良区創造運動大賞東北地方選考委員会」が開催され、今年度の東北地方大賞並びに中央選考委員会への推薦地区(2地区)が決定した。

大賞の選考方法は、都道府県水土里ネットによる第一次選考、農政局ブロック単位による地方大賞並びに中央選考委員会への推薦地区(最大2地区)の決定、中央選考委員会による21創造運動大賞の審査・決定となっている。

当日は、東北各県水土里ネットより推薦された4水土里ネット(岩手県、福島県は辞退)が、それぞれ10分間のプレゼンテーションを行い、その後約10分間、選考委員からの質問に回答するという形式で行われた。本県推薦の水土里ネット南旭川(横手市)は3番目にプレゼンテーションを行い、4名の選考委員から役職員や組合員の運動への取組体制、今後の運動に対する展開方向などについて質問を受けていた。

審査の結果、本県の水土里ネット南旭川は「奨励賞」となり、中央選考委員会への推薦はされなかったが、地元小学校や農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携した取組は、地域と共に歩む水土里ネットとして今後の運動展開が期待されている。



東北地方選考委員会選考結果

- **地方大賞** 水土里ネット三郷堰(山形県)、水土里ネットわたり(宮城県)
- **奨励賞** 水土里ネット青森北部&青森第二北部(青森県)、水土里ネット南旭川(秋田県)

「どろんご学校 in 東福寺」(水土里ネット稲川)を中央選考委員が視察

平成23年度 21世紀土地改良区創造運動現地視察



9月16~17日の両日、「21創造運動大賞中央選考委員会」の太田信介副委員長を始め、各委員及び全国水土里ネット職員が、昨年度「21創造運動大賞」を受賞した湯沢市の水土里ネット稲川(遠藤啓治理事長)を訪れ、活動状況などの現地視察を行った。

一行は、16日(金)に現地に到着し、水土里ネット稲川の事務所を訪れた。はじめに、同水土里ネット職員から地区の概要や21創造運動の取組状況などの説明を受け、その後、同水土里ネットの管内が一望できる稲庭城のほか、地区内に設置されている「標語

コンクールの看板」、地元小学生の施設見学会に利用されている「岩城頭首工」、復活した紙芝居の物語となっている「与惣右エ門堰」など地区内の視察を行った。

翌17日(土)は、同水土里ネットの21創造運動の原点ともいえる「2011どろんこ学校 in 東福寺ため池」の活動を視察した。「どろんこ学校 in 東福寺」は、同水土里ネットが地元農家らでつくる「東福寺ため池守り隊」や「東福寺資源保全会」と共に2005年から3年ごとに開催しており、今回で3回目となる。市内の小学生や園児など約30名が参加した。



当日は、遠藤校長(理事長)の挨拶に続き、ため池の役割などを学ぶ学習会が開かれ、子供たちは真剣な表情で説明に聞き入っていた。また、どろんこ学校のメインである「コイのつかみ捕り」に挑戦、泥だらけになりながらコイを追いかけていた。

どろんこ学校は、3年に1回のため池の水抜きに併せて実施され、ため池から用水路に泥水とともにコイ約50匹が流れ出し、子供たちは泥の中で大はしゃぎしながら懸命にコイを探し、次々に捕まえていた。30cm以上の大物を捕まえ、高々と掲げる子供もいた。各委員も長靴に履き替え、子供たちと一緒に泥んこを体験するなど、まさにどろんこ学校の名に相応しい授業風景の現地視察となった。



2011 秋田県中山間ふるさと 水と土『現地見学会』in 鹿角

— 鹿角地域の魅力に触れる1日 —

平成23年9月3日(土)、本県中山間地域等の農業・農山村が有する自然、景観、伝統文化・芸能、郷土食などの地域資源の魅力について、広く県民の方々に関心を持ってもらい、農地や土地改良施設などの保全・利活用について理解を深めていただくとともに、中山間地域等の活性化につながる支援体制を構築することを目的に、鹿角市において現地見学会を開催しました。

通算8回目となる今回も、50名の募集に対し80名余りの応募があるなど毎年人気の見学会となっています。

当日は天候にも恵まれ、農業用施設でもある花輪大堰や伝統のある花輪の市日、渡部家資料館の見学、水沢地区の棚田保全のため集落が取り組んでいる活動の説明を受けるとともに、花輪ばやし、水沢盆踊り太鼓などの地域芸能の鑑賞を通じ、地域の方々と参加者の交流を図りました。



見学場所 / 昼食 / 地域芸能

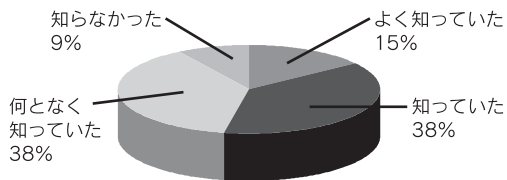
『水沢地域』では、集落の現状や農地保全活動の取り組みについて説明を受けました。標高が高く、営農条件は極めて不利な地域ですが、集落全戸参加による草刈りや水路の維持管理・補修作業で集落全体の協調性が高まるとともに、農地を自分たちで守るという意識が強くなり、生産意欲の向上にもつながっているそうです。

参加者は活動の成果である美しい農地を実際に体感し、活発な質疑応答などにより地域への理解を深めました。

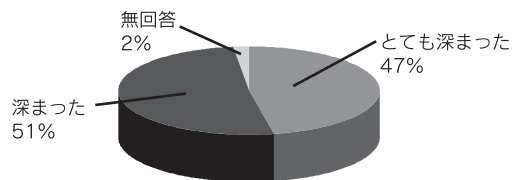


アンケート結果（一部抜粋）

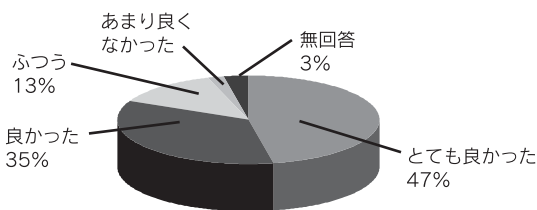
■農山村地域の現状、問題点についてご存知でしたか？



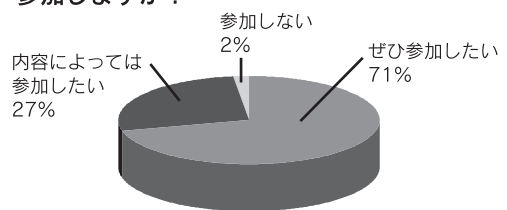
■今回の現地見学会に参加し、農山村地域への関心が深まりましたか？



■見学地の内容はどうでしたか？



■来年度もこのような現地見学会があった場合、参加しますか？



- 農山村地域の現状、問題点についてよく知っていた・知っていた方は約半数でしたが、現地見学会への参加により9割以上の方が農山村地域への関心が深まったと回答。
- 現地見学会の内容には、8割以上の方が良かったと回答しており、来年度もぜひ参加したいという方は7割という結果となりました。



現地見学会の詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

秋田県農林水産部農山村振興課

<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1315986013386/index.html>

平成23年度

換地委員等実務研修会



8月22日(月)、秋田市の「秋田県ゆとり生活創造センター・遊学舎」を会場に、本会主催による「平成23年度換地委員等実務研修会」が開催され、県内で換地業務に携わる県機関、市町村、土地改良区等の関係者約180名が参加した。

研修会は、「換地に関する基礎調査、換地設計基準の作成、換地設定に関する基礎的知識の習得及び留意点の把握に努め、換地業務の円滑な推進に資する。」ことを目的に、事業実施中の地区若しくは今後予定地区の関係者を対象に、毎年度実施している。

本年度は、本会黒子専務理事の開講挨拶に始まり、県農林水産部農地整備課土地改良指導班の菅原副主幹による「換地の基礎知識と換地委員の役割について」、同課農地整備班の石川副主幹による「面的集積促進費の扱いについて」、本会南事務所の高橋次長による「換地設計基準及び換地設定について」の講義に続き、平鹿町土地改良区後藤事務局長による「平鹿高野地区における換地委員として取り組んだ結果について」と題した事例発表などが行われた。

その後の「質疑応答」、「アンケート」では、様々な意見・要望が出され、今後の県内における換地事業の推進や本会換地業務等に反映させていきたいと考えている。

平成23年度 北海道・東北ブロック
換地関係異議紛争処理対策検討会

8月30、31日の両日、秋田市の「ホテルメトロポリタン秋田」において、「平成23年度北海道・東北ブロック換地関係異議紛争処理対策検討会」が開催された。

同検討会は、「都道府県、市町村、土地改良区等の換地関係職員に対して換地関係異議紛争処理に関する研鑽を図ることにより、今後の換地業務の円滑かつ着実な推進を図る」ことを目的に、全国水土里ネット(中央換地センター)の主催により行われ

ているもので、北海道・東北ブロックでは、各道県の持ち回りにより開催されている。

検討会では、各道県から提出された「未然防止事例」個々について、出席者間で熱心な事由討論を行った後、農林水産省、東北農政局の担当者から、各地の事例を交えながらご指導を頂いた。



地域の ちょっと“いい話”

震災ボランティア

～地域の仲間に参加した震災ボランティア～

水土里レポーター 牧野 一
(琴丘土地改良区事務局長)

私の住む山本郡三種町(旧琴丘町)深浜集落は、稲作中心の平地農村地域です。

集落の50～60代有志13名で構成する「深浜21世紀会」は結成して33年となり、毎月1回、各会員宅において鍋を囲んで飲みながら情報交換し、親睦を深めております。

3月11日の東日本大震災に対して、会でわずかながらの義援金を寄付しておりますが、その後、会合での話題は震災復興と原発事故となりました。会員の中に、別団体を通じて現地ボランティア活動に参加した人がいたため、その話を聞くうちに、我が会でもボランティア活動に参加できないかという話になり、都合の付く6名が参加することとなりました。

9月16日朝4時30分に個人のワゴン車で出発し、北上市災害ボランティアセンターでの受付後、市が用意した貸切バスに乗り換え、大船渡市災害ボランティアセンターに到着しました。そこには他の地域から集まってきた多数の人々がいて、市内の被災各地への振り分けが行われました。我々もここで初めて行先を指示され、市中心部から10kmほど北部に位置する旧三陸町崎浜地区に向かうことになりました。

現地に到着したのは午前10時になっていました。崎浜地区は、津波により集落200戸の内42戸が流失し、死者・行方不明者10名の甚大な被害を受けたそうです。

我々の作業は集落中心部道路側溝の清掃で、側溝内は流された住宅のがれきや、上流沢部からの大小入り混じった石、土砂等に埋め尽くされ、惨たんたる状態でした。現場には重機がなく、埋まっているものを手作業で1つ1つ片づける作業です。我々を含めた16人がこの作業にあたりましたが、午前中2時間で片付けた延長は、約20mがやっとでした。

当日は気温31℃真夏日の条件下であったため、水分補給と休憩をこまめに取るようにとの指示がありましたが、個別休憩はなかなか取りづらく、我々の体力も限界に近づいていた午後2時過ぎ、センターの係員から作業終了の指示が出されました。予定より1時間早い終了でしたが、おそらく熱中症の危険を察知したうえでの措置だったと思われます。気が付けば集めた土砂類は、トンパック6個にも達していました。

その後帰途につき、集落に帰り着いたのは午後7時30分、一同疲労こんぱいの状態でありましたが、打ち上げのビールで乾杯し労をねぎらい解散しました。

初めての災害ボランティアを通じ、その大変さと充実感を体験できたことは生涯忘れられないものとなる気がします。

その後開かれた「深浜21世紀会」では、参加できなかった人へ写真を基に内容を報告し、年内中に集落有志にも呼びかけ、再度、ボランティア活動を行うことを決定しました。

今回の大震災では、多くの人が「何かしなければ」を思い、「何をできるか」を考えさせられたと思います。我々の活動は、被災地復興のほんの一部の手助けにしかならないと思いますが、「何をできるかを」考えている方々への一助になればと、寄稿させて頂いた次第です。



特集
地域からの
情報発信

美郷町水環境マイスター養成講座 ～森と水のお話し～

仙北支部水土里レポーター 藤岡 義博
(秋田県七滝土地改良区事務長)



美郷町では、平成21年度から、「地域の水環境保全活動のプロとなる人材を育成する」ための事業として、「水環境マイスター養成講座」を実施しており、今年で3年目となります。

平成23年9月17日(土)、他町の水環境を学ぶという事で、にかほ市象潟の「獅子ヶ鼻湿原“出壺”」で第3回目の講座が開催されました。今回は、あいにくの雨にもかかわらず、にかほ市観光案内人協会の相馬氏の案内のもと、14名の受講生が参加しました。



▲受講生集合写真



▲あがり子大王

湿原内の水温は、常に7℃という冷たさであり、森の中にぽっかりと空いた水辺はオアシスのような佇まいを見せていました。湧水の周辺には「鳥海マリモ」や希少な生物が生息し、手つかずの自然を残す湿原帯として国の天然記念物に指定されております。

また、「出壺(湧水地)」を地元では「クマの水飲み場」と俗称しており、酸性が強いことからクマをはじめ山の動物たちの病気予防や治療に利用しているという風説があるそうです。



▲鳥海マリモ

出壺から湧き出た水は約16ヘクタールの湿原を形成し、その落水は白雪川に合流して山麓の平野を潤しますが、稲作には冷たすぎるので、湿原から平野に至るあちこちに温水路が設けられていました。

その他にも、幹回り7.26メートルある日本一の奇形ブナ「あがりこ大王」などがあり、湿原の自然のすばらしさに感激しました。

終わりに、「水」は生命の源であります。地上に生息する全ての生物に欠かすことのできない「水」、出壺から湧き出ている「水」、湿原を流れている「水」、それは農業生産だけの「水」ではなく我々の日常を支える重要な資源であります。私たちは、水環境のプロとして財産『森と水』を永久に後世に残すべく、その機能の維持と管理育成に努め、次代へ引き継いで行かなければならないと考えております。



▲クマの水飲み場



「あきた体験農園」 の取り組み状況

秋晴れの中で、稲刈り作業を実施
～平成23年度活動報告～

本会などを会員とする「あきた農業体験施設(市民農園・教育ファーム)」では、都市近郊の耕作放棄地を再生し、農地環境の改善と都市住民の農業に対する理解を得ることを目的として、秋田市仁井田地区に地域住民参加型の体験農園を開設し、学童・園児等を対象に農業体験を通じた食育やコミュニティ活動に取り組んでいる。

10月8日(土)、秋晴れの下で約13名の会員・地元住民(仁井田地区の皆さん)が参加して、春に田植えを行った餅米の「稲刈り体験」が行われた。約250㎡(3畝)の稲を刈り取った後、参加者全員ではさがけ作業も行われ、さわやかな汗をかきながら「収穫祭が楽しみだ」と話していた。

なお、秋の収穫祭は11月3日を予定しているが、それまでの間、脱穀・粳摺りを行い、地元の「あおぞら保育園」の園児たちが参加しての「餅つき大会」も計画されている。

＜年間作業計画の中で最近の活動を紹介＞

- ① 8月4日 ジャガイモ収穫体験
- ② 8月22日 枝豆(湯あがり娘)の収穫体験
- ③ 9月9日 枝豆(千秋)の収穫と販売
(本会職員の購入希望者を対象)
- ④ 9月16日 白菜の植えつけ作業
- ⑤ 9月28日 ニンニクの植えつけ作業
- ⑥ 10月8日 稲刈り・はさがけ体験(餅米)



【担当・問い合わせ先】 あきた農業体験施設(市民農園・教育ファーム)事務局 水土里ネット秋田 総務企画部内
TEL.018-888-2712 FAX.018-888-2834

連 合 会 日 誌

8月26日	Akitaふるさと活力人フォーラム”2011	秋田市「秋田県庁舎2庁舎」
9月13日	平成23年度第1回事務主任者会議 ～14日	青森市
9月15日	平成23年度土地改良関係団体役員講習会事前打合せ	本会「第1会議室」
9月28日	平成23年度秋田県水土里情報活用推進協議会総会	本会「第1会議室」
10月3日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会 臨時事務責任者会議	仙台市
10月13日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者研修会	東京都
10月20日	3.11東日本大震災復興支援水土里の集い 第34回全国土地改良大会inみやぎ ～21日	仙台市
10月20日	TPP交渉参加断固阻止秋田県代表者集会	秋田市「秋田県児童会館」
…………… 今後の行事予定 ……………		
10月26日	秋田県食料自給力向上フォーラム2011	秋田市
10月27日	土地改良区会計の改革等に伴う説明会	秋田市「秋田県庁第二庁舎」
11月2日	平成23年度秋田県土地改良事業推進大会	横手市「横手市民会館」
11月15日	第14回全国農業担い手サミットin長野 ～16日	長野県
11月22日	全国土地改良施設管理事業推進協議会第15回通常総会	東京都

平成23年度

インターンシップ受け入れ

県内高校生を対象とした本年度のインターンシップ（就業体験学習）受け入れが、今年度は7月27日～29日の日程で実施された。この度の実習生は、県立金足農業高校環境土木科2年生3名で、一行は3日間の実習内容のレクチャーを受けた後、

- 1日目 GIS（地理情報システム）による図面作成
- 2日目 現況田での測量実習
- 3日目 農業水利施設等の現地視察

の日程で、実習に入った。初日のGISでは、システムが国の「水土里情報利活用促進事業」に基づいて構築中の最先端の技術であることに、しきりに感心していた。2日目は、秋田市近郊の現場で測量実習を体験、普段学校で実習していることもあり違和感も無いようであったが、測量にもGPSを利用するなど技術革新が進んでいることを身を以て体験して貰った。3日目の現地視察では、仁井田頭首工（秋田市）をはじめとする土地改良施設を一通り見学し、学校の授業だけでは得られないものを自ら体験してもらった。

＜3日間のインターンシップを終えた感想＞

石黒 翔 君

今回のインターンシップでは、学校の授業では体験することのできない貴重な経験をすることができました。特に、3日目の仁井田頭首工では田んぼに水が行き届くまでに、こんなにも苦労や手間が掛かっていることが分かりました。3日間で学んだ事を今後の学校生活で生かしていこうと思います。

佐々木一真 君

今回のインターンシップでは、学校では体験できないような事を学ぶことができ有意義な3日間を送ることができました。一番印象に残ったのは「仁井田頭首工」で、田んぼに水が来るまでには費用と苦労がかかっている事を改めて再認識させられました。今回学んだ知識を学校生活に活かしていきたいと思いました。

佐藤 宗幸 君

私は、今回のインターンシップで自分のあまり知ることの無い点から農業を見つめ直すことができました。学校の授業で触れることのない体験をさせてもらったり、普段見ることのない土地改良施設などを訪問しました。今回の体験で学んだ知識を将来につなげられるように、がんばって行きたいです。

会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方々が新たに理事長に就任されました。

- 南秋田郡五城目土地改良区(H23. 6. 10)
理事長 石井光雅
- かづの土地改良区(H23. 7. 14)
理事長 田口信一
- 仙北平野豊川土地改良区(H23. 7. 21)
理事長 高橋勝則
- 大仙市大曲土地改良区(H23. 8. 16)
理事長 判田勝補

県内市町村長の就任について

任期満了に伴う藤里町長選挙が行われ、次の方が町長に就任されました。

- 藤里町(H23. 8. 9)
町長 佐々木 文明

住所変更のお知らせ

- 大仙市清水北部土地改良区(H23. 9. 30)
(変更後)〒014-0207 大仙市長野字一ノ坪58
大仙市立中仙公民館長野分館(内)
TEL・FAX 0187-56-2216

水土里ネット秋田・支部長交代のお知らせ

次の方が新たに支部長に就任されました。

- 秋田県土地改良事業団体連合会鹿角支部
(H23. 7. 20)
支部長 田口信一

特集

農業水利施設内の「ゴミ」問題

シリーズ⑦

内部から外部へ情報を発信

初年度(平成22年度)…内部(会員)への情報発信

- 県内水土里ネット(土地改良区)が管理する農業水利施設のゴミ問題に関する実態を調査し、その内容を取りまとめ、土地改良関係団体役員講習会で情報を発信、また、啓発用ポスターを作成し会員へ配布

2年度目(平成23年度)…外部(県民)への情報発信

- オリジナルのぼり旗を作成し、事務所敷地内へ設置



〔本部〕
秋田市高陽幸町



〔北事務所〕
北秋田市鷹巣



〔南事務所〕
大仙市大曲

- チラシを作成し、各イベントで県民に配布

インフォメーション

第134回秋田県種苗交換会農商工フェア(参考展示)

「農業農村整備フェア」を開催します!!



(昨年の農業農村整備フェアの様子)

- 期間 : 平成23年10月29日(土)～11月4日(金) 9:00～16:00
- 場所 : 協賛第1会場(横手体育館向かい駐車場:大型テント内)
- 内容 : 各種パネル展示、小水力発電デモ版、土地改良相談コーナー、カレンダー作成など
- 共催 : 東北農政局(西奥羽土地改良調査管理事務所・平鹿平野農業水利事業所)、秋田県(農地整備課・農山村振興課・平鹿地域振興局農村整備課)、水土里ネット秋田

「2011水土里の語り部交流会inあきた」(仮称)

～『結い』の精神でつなげよう、秋田の元気、東北へ～

- 日時 平成23年11月19日(土) 13:00～16:00
- 場所 「まなびおん美郷」公民館コンベンションホール
(秋田県仙北郡美郷町飯詰)
- 内容

①講演 「美しき水の郷あきた」にみる農村の『結い』	秋田県山本地域振興局長	菅原 徳蔵
②語り 「語り」を通して知る日本の『結い』の精神	語り部	平野 啓子
③意見交換会		
テーマ: 農村における「結い」の精神を見つめ直す	美郷町長	松田 知己 ほか

農林水産省の組織が変わりました

農林水産省は、農林水産施行策を的確に遂行できる体制を整備するため、平成23年9月1日に農林水産省の本省及び地方農政局等の組織再編を行いました。

詳しくは、農林水産省ホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/org/quota/2011/sosiki.html>

編集後記

◆10月になり朝晩冷え込む日が増えてきました。慌てて暖房器具を準備された方もおられるのではないでしょうか。道行く人たちの服装も秋の装いになり、日増しに秋の深まりを感じます。さて、農業の祭典「秋田県種苗交換会」が今年も間もなく開催されます。今年は「横手に集い 開け未来の秋田の食」のキャッチフレーズのもと、「食と農と人」をテーマに様々な催しが予定されています。本会では、関係機関との共催で「農業農村整備フェア」を開催します。震災、原発事故で揺れた2011年ですが、これからの「秋田の農業・農村」を一緒に考えてみませんか?皆様のご来場をお待ちしております。(広報・渉外班◆嵯峨記)

表紙写真 美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品「旧家の庭で愉快的な伝統芸を演ずる」

※本印刷用紙は、大昭和板紙秋田工場で生産された「地産地消製品」を使用しております。